

国語（中学生） 古文①徒然草「仁和寺にある法師」

1. 徒然草 第五十一段 「仁和寺にある法師」

仁和寺ににんなんじある法師、年寄るまで、石清水いわしみずを拝はいまざりければ、心こころうく覚えて、ある時思ひ立ちて、たゞひとり、徒歩かちよりまうでけり。極樂寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。さて、かたへの人にあひて、「年比思ひつること、果としふりたし侍りぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。そもそも、参りたる人ごとに山さんだちへ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神ほへ参ること本意なれと思ひて、山までは見ほづ」と言ひける。

すこしのことにも、先達せんだちはあらまほしき事なり。

仁和寺にいた、ある法師が、年をとるまで石清水八幡宮やわたのみやをお参りしたことを情けなく思い、ある時思い立ち、一人、徒歩でお参りにいった。(山麓の)極樂寺と高良神社をお参りし、(八幡宮へのお参りは)これだけだと思い込み帰路の途についた。帰った後、傍輩に向つて、「ずっと(心に)思つていたこと(八幡宮へのお参り)を果たせた。聞いていた以上に尊さ(八幡大神の御神威)を感じた。ところで、他の参詣者が皆、山へ登つていつたが、何か山上にあるのだろうか。行ってみたいとは思つたが、お参りするかことが本義であるからと思い、山上までは見に行かなかつた。」と言つた。

小さな」とこも、案内者(指導者)は欲しいものである。

■ 単語を覚えましょう

心うし (情けない)

かばかり (これだけだ)

心得 (理解する)
こころう

年ごろ (長年)

侍り (じぎいます) 【丁寧語】

ゆかし (見たい・聞きたい・知りたい)
こころう

あらまほし (あつてほしい、理想的だ)

■ 係り結びを指摘してください。係り結びによって、どんな感じが加わりますか。

■ 丁寧語「はべり」は、どのように訳すると伝わりますか。

2. 新聖歌486 「やがて天にて」・・・現代語に訳してみましょう

一、御国に住まいを 備えたまえる 主イエスの恵みを ほめよたたえよ

() ()

*やがて天にて 喜び楽しまん 君にまみて 勝ち歌を歌わん

() () ()

二、浮世のさすらい やがて終えなば 輝く常世(とこよの)の 御国に移らん

() () ()

*

三、もうとも勤しみ 励み戦かえ 栄えの主イエスに まみゆる日まで

*

四、目標(めあて)に向かいて 駆せ場を走り 輝く冠を 御殿(みとの)にて受けん

() *